

菅前首相の国葬「弔辞」

憲法違反の安倍元首相「国葬」が強行された。岸田内閣は「国葬」を検証するというが、あと味が悪い結果に終わったことは確かだ。そんな中で、友人代表として菅前首相の国葬「弔辞」に感動した、評価したいという声があるという。

どうも気になるので、菅氏の弔辞要旨に目を通して見た。こんな一文が書かれていた。「日本国は、あなたという歴史上かけがえのないリーダーを頂いたからこそ、特定秘密保護法、一連の平和安全法制、改訂組織犯罪処罰法など、難しかった法案を全て成立させることができました。どの一つを欠いても、わが国の安全は確固たるものにはならない。あなたの信念、決意に、私たちは常しえの感謝をささげるものです。」

安倍氏に官房長官などとして仕えた菅氏にすれば、安保法制などを国民の反対を押し切って成立させたことは、評価できるかもしれない。だが安保法制などにより、日本はアメリカの指揮のもとに「戦争する国」に一步近づいた。私も「アベ政治を許さない」と叫んだのも、安倍氏が政治を私物化して、日本の平和と安全が脅かされることを危惧したからである。国葬と同じように、アベ政治の評価は大きく分かれる。

こんなことを考えていたら、ネットで東京新聞が菅弔辞を伝えていることを知った。たぶん「こちら報道部」に掲載される記事と思うが、ここでも紹介しておきたい。

菅氏は「天はなぜ、よりもよって、このような悲劇を現実にし、いのちを失ってはならない人から、生命を、召し上げてしまったのか」と。医師の木村知氏は『「よりもよって』を、漢字で書くと『選りにも選って』。この言葉に、選ぶならほかにもっと適当な人がいるのにとの意を感じる」と述べる。「よりもよって」との修飾語は「いのちを失ってはならない人から」にかかる。とすれば、「この一文で、他に選ばれるべきだった者、すなわち死んでもかまわない人の存在を認めている。まさに優生思想の考え方そのものだ」と批判する。

事前に作成したのに、武道館の周りには「たくさん若者」が花をささげようと、集まっていると弔辞で述べている。シールズ元メンバーの是恒香淋さんは「献花に訪れた若者もいたとは思いますが、私の周囲は仕事に忙しかったり、台風被害があった静岡にボランティアに行く準備で『国葬どころじゃない』と冷めている人は少なくなかった」と語る。

駒沢大の山崎望教授（政治理論）は「自民の身内として、菅氏が情感に訴える表現で安倍氏を悼むことは理解できる。だが、国葬の弔辞で安倍政権や政策を賛美するのは危うい。政権の全てを正当化し、異論や反対論を封じることにつながるからだ」とし、こう警鐘を鳴らす。「安倍氏の死を悲しむことと、政権や政策への評価は本来、全く別のはず。それが今回の弔辞では一体化し、まさに政治利用と言わざるを得ない」

(2022年10月3日)